

リーディングDXスクール事業 【実践事例】

両河内小中学校

【取組内容①】 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実につながる社会科授業（水産業）

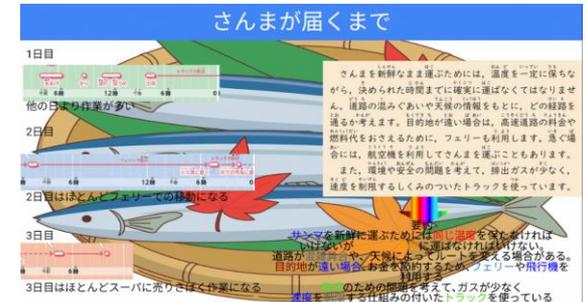
授業をゴールを定め、個々のペースに合わせた学習展開

社会科の授業では、旅行会社や地元で働いている人になりきるといったパフォーマンス課題を設定し、スライドを活用して水産業の課題、解決するためにどのような工夫をしているのかなどを個々のペースに合わせた学習を計画して行った。

まず、日本で獲れる魚、獲れる場所について全体で共有し水産業についての関心を引き出した。その後、個人で興味のあることを中心に学びを進め、調べていく中で疑問に思うこと、気になることをさらに追及していくようにした。どんな魚がとれるのか気になる児童は詳しく写真を使ってまとめ、サンマがどのようにして私たちのもとに届くのかについて興味がある児童は、そのことを中心にまとめていた。最終的にどんな課題がありどんな工夫をしているのかについて自分の考えや調べたことをまとめ、プレゼン形式で全体共有した。



【獲れる魚について興味をもった児童のスライド】

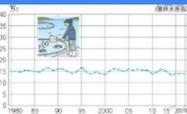


【さんまが届くまでの過程を調べた児童のスライド】

水産業の課題

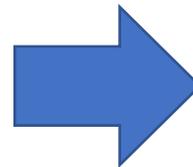
養殖ブリの2つの生産量の  
2つの生産量の

変化と課題  
変化と課題



- ・生産量が全然変化していない
- ・ブリを育てやすい環境下で育てられているため、生産量をあまり変えずにブリを生産することができる

- ・養殖ブリの生産量とは大きく違い、変動が大きく近年では大きく減っている
- ・海水温などの環境の変化によって、魚の取れる場所が大きく変わってしまう。



水産業をしている人々はどのような努力、工夫をしている？

課題 と

それを改善するための 努力

世界の漁業生産量が増え、とりすぎによる水産資源の減少が進むことが心配されている。

水産業のさかんな国々が集まって話し合い、漁船の数や取る量、魚の期間などを決めて、管理しようとしている。

自然の海から魚を取ってくる漁業は、海水温などの環境の変化によって、魚の取れる場所や量が大きく変わってしまう。

世界各地では、水産物消費量の増加に応えるため、養殖業もさかんに行われている。

日本全体の漁業生産量は、消費量とともに減ってきている。

海藻を育成して海の環境を改善する取り組みなどを進めている。

少しでも安定した生産ができるように研究を続ける人達がいる。

サンマだけではなくたくさんの漁業生産量は消費者とともに減ってきている。一方で、外国からの輸入に頼っている水産物もある。

【課題と工夫をまとめた児童のスライド】